

2025年業務実績報告書

提出日 2026年 1月 16日

1. 職名・氏名 教授・早川 貴

2. 学位 修士(商学)、専門分野 商業学、授与機関 慶應義塾大学、授与年 1999年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 経営戦略論Ⅰ(2単位、2年生)
② 内容・ねらい 多様な経営環境の下で企業の持続的競争優位を創出・維持するために用いられる経営意思決定と経営環境分析のための概念的フレームワークを総覧的に習得させることを目的とし、特に「競争戦略」とよばれるカテゴリの主要な分析・意思決定フレームワークを個々に取り上げて解説した。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 標準的な入門的経営学講義を履修済の学生を対象に想定し、身近な商品・企業による概念的フレームワークの応用事例の紹介と、当該フレームワークの解説を組合せて1回の講義を構成するよう努めた。内容上の工夫として、経営戦略論の持つ学際的な趣をそのままに、部長級以下で必要とされるフレームワークを中心にコースを構成した。講義はPCプレゼンテーションとネット上の資源を組み合わせることで遠隔で行い、単元ごとにクイズを行って理解度を測りつつ解説の密度を調整した。
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 経営戦略論Ⅱ(2単位、2年生)
② 内容・ねらい 「経営戦略論Ⅰ」と同様、企業の持続的競争優位を創出・維持するために用いられる経営意思決定と経営環境分析のための概念的フレームワークの習得を目的とする授業だが、「経営戦略論Ⅱ」では、特に経営学のフレームワークが依拠する経済学的基础に遡り、フレームワークに内在する論理構造を詳細に理解させることをねらいとする内容としている。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 「経営戦略論Ⅰ」を習得済の学生を想定し、フレームワークの簡潔な復習から始めて、その経済学的な構造を解説し、個々のフレームワークの持つ限界と誤用・濫用の抑止に重心を置いて講義した。内容上の工夫として、目下のネットワーク経済体制下での起業家・企業家育成に資すると思われる Make or Buy のフレームワークに特に焦点を当てた。講義はPCプレゼンテーション素材とネット上の資源を組み合わせることで遠隔で行い、ほぼ単元ごとにクイズを行って理解度を測りつつ講義の密度を調整した。
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 外書購読(2単位、2年生)
② 内容・ねらい 授業のねらいは、英語力の涵養よりも、英文のビジネスニュースを読むことに対する抵抗感を無くし、むしろ積極的に接触しようとするような態度・関心を涵養すること、ならびに、企業実務で英語を使用するような場面で“ビジネス教養”的な水準で求められる国際商務の知識と語彙を増すことに置いた。内容の基本は、折々の英文ビジネスニュースをシェアして読み進めることに置き、トピックに関する討論を交えて専門的な語彙と知見を広げた。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 当初は記事の探索と読込に均等に重みを置き討論を補助的に用いて授業を進めたが、昨年の経験から討論スタイルの方が学生の取組が良く理解も深まることから、後半は記事探索と討論に重心を置いた。積極的な取組を促す目的から討論は日本語で行わせ、「英文ニュースに積極的に接する態度・関心の涵養」を重視する目的から討論で用いる論拠・証拠を全て英文記

事に拠らせた。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 基礎ゼミ（2単位、2年生）
② 内容・ねらい 経営学の専門教育を受け始めたばかりの学生を想定し、経営学に共通の意思決定の視座である「目的合理的な手段選択」と「経済的比較優位性による代替的手段選択」とを、直感的・体感的に修得させることを目的として、大学受験、結婚、芸術など、通常、経営学的意思決定モデルを適用しない事例で構成されたテキストを採用し、「経営学ではどう考えるか」について演習形式ながら実感を伴って学ばせる内容とした。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 テキストには取って代わって経営課題ではない意思決定問題を扱うものを採用したので、「堅い学び方でも面白く学ぶことは出来る」ということを体感させる目的で、授業方法は通常の演習形式、レポーター制による輪読・討論スタイルで進めた。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 演習Ⅰ（4単位、3年生）
② 内容・ねらい 前期は、経営学の専門基礎を修得済みの学生を想定し、プレイスブランディング実務者としてプロジェクトを推進・管理するのに要する専門的な知見を演習形式で授業した。後期はPBL指導と卒業研究指導を並行して行った。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 前期は、地場の伝統産業から、音楽産業、広告業など、多様な進路を志望している受講者の関心の「最大公約数」的なテキストとして Priya Parker の <i>The Art of Gathering</i> （集いの技法）の訳書『最高の集い方』を選択し、レポーター制の輪読・討論と教員による補足的な理論講義（副読本指定した田中洋・著『消費者行動論体系』に基づく）を通じて理解を深めた。 後期には、前期に学んだ、あらゆるレベルで「集い」を成功させる技法を、PBLを通じて実践する試みを指導する一方、学生個々の卒業研究指導を始めた。 座学と実学を連係させて理論と実践を架橋する態度とその効用の理解に努め、同時に、グループでの学びが個々の学生の学びの焦点や動機をより鮮明にするような関係が生じるような設計と運用に努めた。
(2)その他の教育活動
「ふくい企業価値共創ラボ」における社会人向け講義

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
① 著書
② 論文（査読あり）
③ 論文（査読なし）
④ 学会報告等
⑤ その他の公表実績：
(2)科研費等の競争的資金獲得実績

(3)特許等取得
(4)学会活動等

5. 地域・社会貢献活動

①ー2 委員就任（県） 若者起業家育成事業企画・運営業務選定委員会委員（令和7年8月6日）

6. 大学の管理・運営

(1)役職（副学長、部局長、学科長）
(2)委員会・チーム活動
学部オープンキャンパス委員会
(3)学内行事への参加
全学ミーティング（4月・10月）、オープンキャンパス（永平寺キャンパス）、共通テスト入試説明会、
(4)その他、自発的活動など